

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

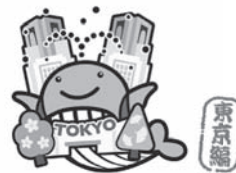
必勝法はただ1つ「常にチャレンジ」 「1字変えと1通り増し」で当せん!

宝くじに必勝法はないが「常にチャレンジ」「常に探究の心」は大切なようだ。そういうお手本のような当せん者がいる。

1字変え 愛知県の店員Gさん(49)は数字選択式宝くじのミニロトのファンだ。毎回「4通り買い」で、申込み数字も一定期間決めて購入している。だが、第794回号を申し込んだときは、とっさのひらめきで前回の申込数字と4通りとも、それぞれ「1つ」だけ数字を変えて申し込んだ。結果はうち1口が

1等に当せん。当せん金は1,801万1,400円となった。運命の「1つ」の数字を変えずとも、この時、確実に3等には当たっている。だが、その当せん金は1万円で、この差はデカイ。

4通り目 福岡県の自営業R子さん(42)は数字選択式宝くじのファンで、最近はロト7に挑戦。そして、いつも3通り買いと決めている。ところが、第93回号を申し込んだときは、その時の勢いか、ひらめきかはわからないけれど、申込用紙の4通り目まで数字を記入した。抽せんの結果は、最後の「4通り目」の申込み数字が3等に当せん。130万6,200円を獲得した。「たまたまです」といって喜ぶRさんだった。



ご当地クーちゃん
都庁クーちゃん

当せん者エピソード

宝くじ こぼれ話

買う前に心臓が「ドキドキ」 したら「大当たり」のサイン

「虫の知らせ」などという言葉があるが、宝くじでもそうした予感があるようだ。買う前に息苦しいほどの「ドキドキ感に襲われた」という高額当せん者が2人いる。これが前兆のようだ。

東京都の会社員T子さん(21)は日曜日に自宅近くの宝くじ売り場へロト7を買いに出かけ、その際、以前、買ったドリームジャンボ宝くじ(第641回全国自治宝くじ)30枚の当せん番号調べをしてもらうことにした。窓

口に並んでいたら、急に心臓がドキドキし始め、カウンターにつかまりながら、調べてもらったら、なんと2等の100万円に当せんしていたようだ。

もう1人は福岡県の会社員Aさん(34)で、年末ジャンボ宝くじを買おうと目指す売り場へ近づいたら、なぜか、心臓がドキドキし始めたようだ。とっさに「これは、なにかある」と感じたAさん。販売員に勧められるまま、年末ジャンボのほかに、年末ジャンボミニ7000万(第652回全国自治宝くじ)も50枚購入した。その結果、1枚が1等の7,000万円に当せん。Aさんに当せんの秘訣を聞いたら「普段からカンを養うこと」だそう。



ご当地クーちゃん
五島手延うどんクーちゃん